

高麗祭 50回目の記念すべき節目

“プレミアム フェスティバル”へ 全員集合!

 城西大学
 城西短期大学

「地域と大学」——課題発見力を身につけるグループワーク
シンポジウム「次世代の医薬・栄養・健康を担う人材とは？」

初の3大学合同大学祭 紀尾井町で開催

目次

- 02 “プレミアムフェスティバル”へ全員集合!
高麗祭 50回目の記念すべき節目
- 04 学生3500人と教職員
M8.1想定で防災訓練
初の3大学合同大学祭 紀尾井町で開催
石井ゼミのローカルヒーロー
“2人のJ”が競演
- 05 上原明・新理事長が就任挨拶
「地域と大学」——課題発見力を
身につけるグループワーク
「文学と音楽のタベ」開催
- 06 シンポジウム「次世代の医薬・栄養・
健康を担う人材とは？」
薬学研究科院生3人が
優秀発表者賞を受賞
「22号館」地鎮祭 再来年3月竣工予定
リパティハウスと連携協定を締結
- 07 男子駅伝部 箱根駅伝出場を決める
女子駅伝部 「杜の都駅伝」
シード権を獲得
ミャンマーからの視察団が本学訪問
中国の大学生と合同練習
(女子ソフトボール部)
- 08 [シリーズ]先輩訪問
NHK音響デザイン部 東谷 尚さん
- 09 「江戸子ども学びの風景展」
「夢をかたちに、2020年の主役たち」
[シリーズ]学生互版
- 10 [シリーズ]図書館だより
- 11 [エリア紹介]
坂戸市 「坂戸の大宮住吉神楽」祈年祭奉納
越生町 武蔵越生七福神めぐり
東武線沿線情報
東上線で幻想的なイルミネーションを見に行こう!

題字：創立者 水田三喜男 先生

今号の表紙
半世紀の記念すべき節目を迎えた高麗祭。台風の影響であいにく10月29日は終日、雨空となりましたが、30日は一転して台風一過の晴天が広がりました。紅葉が進む中、メインストリートでは全学応援団チアリーダー部のパフォーマンスが披露され、高麗祭を盛り上げました。



2017. 10.28~30 高麗祭

“プレミアムフェスティバル”へ全員集合! 50回目の記念すべき 節目



だるまの目入れをした後藤光一委員長(右)と新村孝成副委員長

第50回「高麗祭」が10月28日から30日まで開かれました。今年のテーマは「50回目だよ〜今年の高麗祭!! “プレミアムフェスティバル”へ全員集合!」。大学創立の2年後に始まった学園祭は今年、50回の記念すべき節目を迎えました。

10月28日、清光ホールで行われた開祭式で、後

藤光一実行委員長(現代政策学部4年)は「去年は次なる節目の年に向けて新たな一歩を踏み出そうという気持ちで新たなことに挑戦して、大いに盛り上がりました。今年は節目の年ですので、昨年に負けないよう、そして高麗祭の歴史を感じさせつつ、よりよい高麗祭をつくっていかうという意味をこめてテーマが決まりました。また、次なる50年に向けて盛り上げていこうと思います」と挨拶しました。

続く来賓祝辞で、上原明理事長は「実に久しぶりに(坂戸キャンパスに)お邪魔しました。路上や教室で高麗祭の準備をしている皆さんの生き生きとした活動ぶりを見ました。これから3日間、皆さんの一致した力が発揮されるのを楽しみにしています」と学生たちに呼びかけました。また、中央委員会委員長の大島萌さん(薬学科4年)は「今年は水田三喜男記念館と21号館が新しく加わり、進化した城西大学を、高麗祭を通じて多くの人に見ていただけることを期待しています」と述べました。

28日午後と29日は台風の影響で悪天候となりましたが、30日は台風一過の好天に恵まれました。期間中、柔道シドニー五輪銀メダリストで現在、バラエティ番組にも出演している篠原信一さんの講演会や俳優の佐藤二朗さんのトークショー、柳家権太楼さんらの城西寄席、ラバーガールなどのお笑いなどのほか、全学応援団チアリーダー部の演舞や吹奏楽部の演奏、ダンスサークルによるパフォーマンスなど多彩なイベントが展開されました。また、教室では文化系サークルなどによる発表会もありました。

初日には、清光会館横で父母後援会、13号館前で同窓会の物産展がそれぞれ行われ、小雨の中、多くの来場者のにぎわいました。メインストリートと17号館前の各種の露店にも学生や地域の方々らが列をつくりました。

実行委員会が選ぶ今年の【高麗祭大賞】には、「お笑いライブやお客さんを巻き込んでのクイズライブで高麗祭を大いに盛り上げた」として文化部連合会の「ライブ」が輝きました。その他の各賞は次の通り。

【理事長賞】留学生国際交流会 【学長賞】化学会
【優秀賞(父母後援会)】天文研究会 【企画賞(同窓会)】薬学会 【学生部長賞】高麗祭実行委員会



学生3500人と教職員 M8.1想定で防災訓練

2017
10.18/
10.25

本学の機能別消防団(女子ソフトボール部員ら) 総務大臣感謝状

全学参加の防災訓練が10月18日に行われました。正午過ぎ、マグニチュード(M)8.1の「関東平野北西部緑断層帯地震」が発生し、坂戸でも震度6強～6弱の揺れを観測したとの想定で、教室から総合グラウンドまで避難しました=写真⑥。



授業を受けていた約3500人と教職員が参加。避難誘導では、本学の33人の「機能別消防団(学生消防団)」の団員が力を発揮、団員はヘルメット姿で手に誘導棒を持ち、学生を誘導しました。防災ヘリやはしご車による救助訓練や起震車による震度体験も行われました。

大学生を対象にした機能別消防団は県内初の試みとして発足。女子ソフトボール部員を中心とした33人が、5月1日に辞令を受けました。学生たちは、災害時に坂戸市が設置する避難所の設営や運営な

どを支援して救援物資などに配布にあたり、平時には火災予防や消防団のPR活動などに当たります。

また、10月25日には総務大臣感謝状贈呈式(消防団関係)が総務省で行われ、「学生団員の増加数が大きい消防団」として、本学の機能別消防団に感謝状が贈呈されました。当日は、団を代表して経営学部4年の寺岡優花さんが贈呈式に出席し、野田聖子総務大臣から感謝状を受けました=写真⑦。



初の3大学合同大学祭 紀尾井町で開催

2017
10.1

「地域の方々とつながれるイベントに」

城西大学、城西国際大学、城西短期大学による初めて合同大学祭「JOSAI TRIVERSITY FES」(トライバーシティ フェス)が10月1日、東京紀尾井町キャンパスで開かれました=写真。



「3大学の学生が通う紀尾井町キャンパスで初の大学祭を」との学生からの強い希望により、大学祭実行委員会が設立され、実現との運びになりました。

オープニングセレモニーでは、「学生が元気。それで3大学は元気になる」(白幡晶学長)、「愛がある大学での大学祭」(杉林堅次城西国際大学学長)、「成功を祈ってみんなでがんばるぞ」(草野素雄短大学長)と3学長が挨拶した後、大学祭実行委員会代表の山森伸太郎さん(理学部2年)が「開催には多くの困難がありながら、何とか仲間たちで協力し、問題を解決していきました。3大学の交流だけではなく、地域の方々とつながれるイベントにしたい」と開催の言葉を述べました。

城西国際大学メディア学部の各ゼミが運営に協力して大学祭を盛り上げました。ステージでは演劇部による公演やJIUアイドル部によるコンサート、ダンスサークルによるパフォーマンス、DJイベントが行われ、来場者を沸かせました。

石井ゼミのローカルヒーロー “2人のJ”が競演

2017
11.5

「東日本大震災&熊本地震 復興チャリティイベントin 飯能」

西武池袋線東飯能駅前11月5日に開かれた「東日本大震災&熊本地震 復興チャリティイベントin 飯能」に、経営学部石井ゼミのローカルヒーロー「リベレスパーJ」(2016年～)と、「ルーガライザーJ」(2017年～)の「2人のJ」が参加して、イベントの盛り上げに一役買いました。

3年前から行われている、各地のローカルヒーローが集うイベントで、「2人のJ」は、先輩後輩による夢の競演を果たす=写真=とともに、募金活動に加え多くのヒーローたちとのコラボショーにも参加しました。

今年、埼玉県を拠点として活動するローカルヒーロー「武蔵忍法伝 忍者烈風(飯能)」をはじめ、「光の戦士ツインウェイター(福島)」「郷熊戦煌ジグリッター(熊本)」「ハニー・ド・ファイブカード(大阪)」など多くの団体が参加。また、福島からは地元の名産品物産店舗や有名フラダンスチームも参加しました。

4年生による「リベレスパーJ」は、今回が実質最後のステージショー。3年生による新ヒーロー「ルーガライザーJ」は11月12日に行われた「鶴ヶ島産業まつり」で初ステージを披露しました。



“2人のJ”(左:リベレスパーJ、右:ルーガライザーJ)=撮影者「あおい」様

上原明・新理事長が就任挨拶

2017
10.28

「問題を整理し透明性ある体制をつくる」

上原明・新理事長の就任挨拶が10月28日、清光会館視聴覚室で行われました=写真。上原理事長は約80人の役職教職員を前に、まず就任の経緯を説明。打診の段階で「前理事長の問題に対して、学外理事として責任を感じており、お引き受けするのはいかがなものかとお断りしました」と明かしました。しかし、引き受けなければ城西大学の今後が混沌とするのは避けられないという思いと、「水田三喜男先生の建学の精神をさらに次の方にバトンタッチする役目は重要ではないかと思ひ、お引き受けする決心をしました。ガバナンス、コンプライアンス、マネジメントの問題を整理して透明性のある体制をつくって次の人に引き継ぎたい」と述べました。



その上で、上原理事長は①大きな流れをつかんで、身近なことから手をつける「着眼大局 着手小局」の基本姿勢②短期的視点より長期的視点に立った判断基準③部分最適より全体最適を考えた決断——が重要と指摘。「厳しい時代に城西大学を発展させ、そして時代が必要とする人材を育てるためには今、一歩から始める。自分の間にはそれは成功しなくてもその芽を育てていく、そういう気持ちが重要ではないかと思っています。50年続いたこの歴史を私も含めて皆さんと一緒に次のリーダー、次の走者にバトンタッチしていく気持ちで一緒に頑張りたいと思っています」と結びました。

後期の全学部授業である「地域と大学」が行われています。城西大学にあるミュージアムのほか、近隣地域などの施設について見学、体験して具体的に学んでいます。地域の文化施設について関心を持ち、課題を発見する力を身につけるとともにグループワークを通して問題意識を深めることが狙いです。

「地域と大学」——課題発見力を身につけるグループワーク

高麗神社宮司も講演 「高麗郡建郡1400年に向けて語り継いでいきたい」

後期の全学部授業である「地域と大学」が行われています。城西大学にあるミュージアムのほか、近隣地域などの施設について見学、体験して具体的に学んでいます。地域の文化施設について関心を持ち、課題を発見する力を身につけるとともにグループワークを通して問題意識を深めることが狙いです。



高麗神社を見学する学生たち

受講しているのは、経営学部や現代政策学部を中心とした約110人で、責任教官は現代政策学部の奈良澤由美教授。9月22日のガイダンスの後、創立者を顕彰したファウンダーズルームのある水田三喜男記念館を手始めに薬草園や水田美術館を見学。11月17日には、日高市にある高麗神社の高麗文康宮司が「高麗神社の生かし方」と題して講演。同神社は奈良時代に高句麗から渡来した「高麗王若光」を祭神とする神社で、若光ら高句麗人1799人が716年にこの地に入って高麗郡が建郡されました。昨年は

大野松茂理事長(右)と高麗宮司



建郡1300年の記念の年となり、さまざまなイベントが展開されました。高麗宮司は「高麗郡建郡1300年は高麗神社の祝祭ではなく、地域の祝祭でした。1400年に向けて地域のお祝いとして語り継いでいきたい」と語られました。講演を聞いた現代政策学部2年の石田昭太郎さんは「地域の祝祭を成功させるための苦勞の裏話が聞けてよかった」、経営学部1年の須貝千里さんは「日高市や飯能市が高麗郡だったことは知っていたが、川越市(の一部)も高麗郡だったことは初めて知りました」と話しました。

翌18日は約30人が高麗神社を見学。神社内では高麗宮司が質問役となり、一般社団法人「高麗1300」理事長の大野松茂・元衆議院議員から話を聞きました。大野氏は「1300年事業によって地域に対する理解と愛着が一層高まった」と話されました。

学生たちは施設見学と並行して、グループ別に選択した施設についての学習成果のまとめに入っており、1月には2回にわたり成果発表会が行われます。

「文学と音楽の夕べ」開催

2017
10.6

——ハンガリー詩人、アラニュー・ヤーノシュの生誕200年を記念



演奏するカラーカ音楽楽団

東京紀尾井町キャンパス1号棟ホールで10月6日、「文学と音楽の夕べ」が開かれました。ハンガリーの偉大な詩人、アラニュー・ヤーノシュ

(1817～1882年)の生誕200年を記念して、駐日ハンガリー大使館が主催、学校法人城西大学が共催しました。ハンガリーで国民的人気を集めているカラーカ音楽楽団が、ヤーノシュの詩を現代風解釈でアレンジした楽曲9曲のほか、オリジナル曲を披露。ハンガリー関係者や市民の方々と約150人が、秋の夕べのひとときを楽しみました。

当日配布されたパンフレットの歌の紹介の日本語版は、城西国際大学でハンガリー語を学ぶ学生たちが、キライ助教の指導で訳しました。また、演奏終了後には、城西大学でハンガリー語を学び、来年3月にハンガリーに短期留学に行く学生が楽団の4人に花束を贈呈しました。

ヤーノシュはハンガリーを代表する詩人で、作品の中では約2万3000もの異なった語彙が使われ、作品の多くがハンガリーの学校の必修課題であり基礎知識とされています。詩文のほかに特に小叙事詩(バラード)、そして力強く心も純真な英雄について語る「トルディ」という叙事詩が広く知られています。

カラーカ音楽楽団は、ハンガリーで国民的な人気を博している民族音楽バンドです。クラシック楽器と世界各地の民族楽器による演奏に加えて、4人の歌声が個性あふれる独特のハーモニーを生み出しています。レパートリーは1000曲を誇り、結成30周年の2000年には、ハンガリーで芸術・美術活動貢献者に贈られる最高賞「コシュート賞」を受賞しました。ハンガリー国内だけでなく、世界各国でコンサートを行っており、今回は8年ぶり9回目の来日となりました。

シンポジウム「次世代の 医薬・栄養・健康を担う人材とは？」

2017
11.25

各界オピニオンリーダーが提言・討論



パネルディスカッションの様子

東京紀尾井町キャンパス1号棟ホールで11月25日、シンポジウム「次世代の医薬・栄養・健康を担う人材とは？」が開かれました。大学院薬学研究科が主催し、薬剤師や関係者、本学の学生・教職員ら約100人が、各界のオピニオンリーダーによる提言や討論に熱心に耳を傾けました。

日比野康英研究科長の開会挨拶に続き、宗像守・日本チェンドラッグストア協会事務総長、紀平哲也・厚生労働省医薬・生活衛生局薬事企画官・医薬情報室長、赤瀬朋秀・日本経済大学経営学部長、杉林堅次・城西国際大学学長の4氏が特別講演しました。杉林学長は、同研究科に「医療政策管理分野」と「栄養政策管理分野」を設置したことを紹介、「健康政策を理解して地域で活躍できる薬剤師・管理栄養士を育成していきたい」と述べました。

この後、白幡晶学長をモデレーターにしたパネルディスカッションには、池田康幸・埼玉県三芳町健康増進課保健センター所長（管理栄養士）も参加して「医療人材養成の課題と将来展望」をテーマに意見を交わしました。地域や業種など各種連携のあり方やグローバル化への対応、求められる人材などを巡って活発な論議が展開されました。白幡学長は「これをきっかけに大学もいろいろな意味で発信を継続していきたいと考えております」と結びました。

薬学研究科院生3人が 優秀発表者賞を受賞

2017
9.16

第61回日本薬学会関東支部大会

9月16日に開催された「第61回日本薬学会関東支部大会」で、薬学研究科大学院生3人が優秀発表者賞を受賞しました。この賞は、口演およびポスター発表演題の中で、特に優秀な発表を行った大学院生・学部生に贈られるものです。受賞者と演題は次の通りです。



左から林浩輔さん、岡田明恵さん、加藤洋介さん

林 浩輔さん(薬学専攻博士課程4年、医薬品化学講座)＝超原子価ヨウ素試薬を用いた新規2-アザスピロ[4.5]デカン類の合成
加藤洋介さん(薬学専攻博士課程4年、医薬品化学講座)＝プロテオーム解析用MALDIマトリックスとしてのフェルラ酸誘導体の評価
岡田明恵さん(薬科学専攻博士前期課程1年、薬粧品動態制御学講座)＝非ラメラ液晶脂質を用いたdepot製剤の開発

「22号館」地鎮祭 再来年3月竣工予定

2017
10.10

地上7階建て・総床面積8381平方メートル

水田記念図書館に東側に建てられる22号館の地鎮祭が10月10日、現地で行われました。設計監理は今年3月に竣工した21号館（新薬学部棟）と水田三喜男記念館と同じく建築家の阿部仁史氏と久米設計。施工は北野建設東京本社が行います。2019年3月、竣工の予定です。

神事では、阿部氏と小野元之理事長特別補佐、北野建設東京本社の竹内逸生常務執行役員が参入し、白幡晶学長らが玉串奉奠して工事の無事を祈りました。



22号館完成予想図

22号館は鉄骨一部鉄骨鉄筋コンクリート造り地上7階建てで、総床面積は8381平方メートル。さまざまな授業に使われる多くの講義室（1～4階）と薬学部の研究室・実習室（5～7階）を併設しています。

正面部分は、図書館棟のシンボリックな立面に準じる塔状のデザインとし、高いエントランスホールの吹き抜け空間と合わせて、神聖な学び舎を象徴。シンプルで機能的な内部空間は居室を南側に集めて自然光を多く取り入れるほか、北側の階段部分は3階までガラス張りにするなど、心地よい教育環境の創造を目指しています。

リバティハウスと連携協定を締結

地域食材での食品開発や学術研究で協力



ユズランタロウ

「タネまで柚子らんゼリー」のキャラクター「ユズランタロウ」

本学はこのほど、野菜ペースト加工などを手掛ける有限会社リバティハウス（本社・埼玉県八潮市）と連携協定を締結しました。地域食材を生かした食品開発や学術研究で協力し、相互および地域社会の発展に寄与するのが目的で、本学は同社の製造する製品に対する食品学や栄養学などの専門的見地に基づいた監修などを行います。

薬学部医療栄養学科が展開する「こま川めしプロジェクト」の一環で、新商品の柚子の種皮まるごとペーストを使用した「タネまで柚子らんゼリー」が生まれました。同科の学生を中心に企画から商品開発まで手掛け、同社に製造を依頼しました。

同ゼリーは、柚子を丸ごと使用しているため、クエン酸を多く含み、ランナーやスポーツをする方にお勧めだそうです。

こま川めしプロジェクト

関東を流れる荒川の支流の一つ高麗川は、やがて太平洋に注ぎ、世界とつながっています。この高麗川をシンボルに、生産特性、食文化特性、さらに食生活や栄養価を考慮した食事食品「こま川めし」を提案し、個人の身体のみならず、社会や経済や世界が元気になるメニューを発信するプロジェクトです。

2017.10.14

男子駅伝部 箱根駅伝出場を決める

2年ぶり14回目

第94回東京箱根間往復大学駅伝競走（箱根駅伝）の予選会は10月14日、東京都立川市で行われ、男子駅伝部は10時間8分50秒で総合8位となり、2年ぶり14回目



予選突破が決まり歓声をあげる選手たち

の本戦への出場を決めました。部員たちは一丸となって見事、昨年のリベンジを果たしました。新しい伝統への第一歩。部員たちは、シード権奪取と過去最高の5位入賞を掲げて箱根路に臨みます。

立川市の陸上自衛隊立川駐屯地から市街地を経て国営昭和記念公園に至る20キロのコースで行われ、各校12人が出走し上位10人の合計タイムで競いました。5キロ通過順位は9位、10キロで順位を一つあげて8位となり、順位を保ったまま20キロを終えました。出走したメンバー12人中10人が60分から61分台でまとめました。個人では金子元気選手（経営学部3年）が24位、菅真大選手（経営学部4年）が29位と上位に食い込み、チームに貢献しました。

レース後の報告会で、榑部静二監督は「昨年悔しい思いをした選手たちはこの1年、しっかり練習を重ねてきました。今日、通過を迎え、本当にうれしく思います。応援に回った選手たちの中に成長著しい選手もいるし、強くなる選手もいます。期待して応援していただきたい」と述べ、中舎優也主将（経営学部4年）は「今日の8位に満足せず、もっと個々の力を強め、全員で『箱根シード、5位（入賞）』の目標を達成していきたい」と力強く語りました。

2017.10.29

女子駅伝部 「杜の都駅伝」シード権を獲得

6年ぶり
16回目

宮城県仙台市で10月29日に行われた第35回全日本大学女子駅伝対校選手権大会（杜の都駅伝）で、女子駅伝部は2時間8分46秒で8位入賞し、6年ぶり16回目のシード権を獲得しました。



第35回大会レース後に笑顔を見せる選手たち

一時はシード（8位以内）圏外に落ちましたが、アンカーの三ツ木桃香選手（現代政策学部2年）の3人抜き快走もあって、久々のシード返り咲きとなりました。

1区のキャプテンの福居紗希選手（現代政策学部4年）が先頭から13秒差の5番目で襷を2区に。2区の上田未奈選手（経済学部3年）も区間4位での好走でチームを3位にまで上げて3区の小笠原晴季選手（経営学部2年）へ。小笠原選手は順位を7位まで落とすも、続く4区の佐光葉々子選手（医療栄養学科2年）がシード権内の7位をキープしたまま5区の相原もこ選手（現代政策学部2年）につなぎま

した。5区でいったんシード圏外の11位まで落ちましたが、最終6区の三ツ木選手が、区間3位の走りでゴールしました。

三ツ木選手は「シード権獲得という結果を残せてとてもうれしい。1、2区の先輩方が作ってくれた流れがなかったら良い走りではできなかったと思うので、今度は自分が流れを作れる力をつけてチームに貢献できるようにしたい」と語りました。

2017.10.24

ミャンマーからの視察団が本学訪問

2020五輪ホストタウン、鶴ヶ島との協定書も締結

2020年の東京五輪・パラリンピックで鶴ヶ島市がミャンマーのホストタウンになったことを受けて、ミャンマーの保健・スポーツ省のテック・ウィン事務次官らの視察団が10月24日、本学を訪問しました。

一行はウィン次官や同国内のスポーツ施設の責任者ら7人。懇談で、鶴ヶ島市の和田公雄副市長に続いて従二和彦副学長が「施設を利用して精いっぱい協力させていただきます。これを機



格技室を視察するウィン次官（右端）ら一行

にミャンマーとの親交を深くさせていただければ」と挨拶。これに対し、ウィン次官は「城西大学はスポーツに強い大学と聞いています。選手にとっては良い経験になります。これを機にスポーツだけでなく、学生や教員の交流、また薬学、医学でも協力関係を持ちたい」と述べました。

この後、一行は水田三喜男記念館の前で総合グラウンドの説明を受けたほか、格技室（柔道場）や温水プールを視察しました。格技室では、ウィン次官はマットの柔らかさに驚いた様子も見せていました。この日は、本学のミャンマーからの留学生3人と城西国際大学の留学生6人が一行を歓迎、視察にも同行しました。

一行は翌25日、トゥレイン・タン・ズイン駐日ミャンマー大使の立ち会いの下、鶴ヶ島市との事前トレーニングキャンプの実施に関する協定書の締結式に臨みました。

2017.11.21

中国の大学生と合同練習

女子ソフトボール部 中国大学生訪日団と交流

中国の北方工業大学と中国伝媒大学の女子ソフトボール部学生ら33人が11月21日、坂戸キャンパスを訪れ、女子ソフトボール部と高麗川河川敷にあるソフトボール練習場で合同練習を行いました＝写真。

これは外務省が推進する「日中植林・植樹国際連帯事業」による日中青少年等交流事業中国大学生訪日団第3陣（スポーツ）の交流活動の一つ。練習試合は2大学と各30分行



いました。昼食を兼ねた交流会は、それぞれの大学が紹介しあい質問を交えながらの交流になりました。その後に交流会を開催しました。

先輩訪問

各界で活躍する卒業生を紹介する「先輩訪問」。今回は音響デザイナーとしてテレビ番組作りにかかわっているNHKデザインセンター音響デザイン部の東谷尚さん(39)にお話を聞きました。



やりたいことを 躊躇せずに行ってみて

NHK音響デザイン部 東谷尚さん (2001年 経済学部卒)

—音響デザインとはどんな仕事ですか。

「テレビから出てくる音にはいろんなものがあります。現場の音、音楽、効果音、ナレーション、あるいは無音の間もある。音の面からアプローチして、その番組を分かりやすく視聴者に届けるのが音響デザイナーの仕事です。現在はNHK総合で月～木夜10時からの『クローズアップ現代+ (プラス)』の音響を主に担当しています。番組で取り上げるテーマの一つ一つが、自分や社会に密接にかかっている。そのことを視聴者へ向け「一緒に考えてみませんか?」という番組のスタンスに音の面からかかわれるというのが、やりがいです」

—どんな学生時代でしたか。

「中高と吹奏楽部でクラリネットを吹いていました。大学では部活ではなく、当時1人暮らしをさせてもらっていた川越で地元吹奏楽団に入って打ち込みました。実力のある楽団で、日本を代表する作曲家も出入りしていました。全国大会に出たことやその方との出会いが大学時代の最大の収穫でした。その出会いが昨年、大阪に赴任している際にドラマ番組の音楽委嘱につながりました。人とのつながりは大事だと身をもって感じました。一方で、さまざまなジャンルの音楽のCDを買って、このプレイヤーはこういう所がすごいとか、このCDにもこの人がいたとか、この作曲このアレンジは好きだとか分析するのが好きで、そういう知識を広げていったのが大学時代でした。この時のこだわりが実は今の仕事に大いに役立っています」

—NHKを選ばれた理由は。

「大学時代に打ち込んだのが、音楽だったので、音楽にかかわる業種をいくつか受けて、最後のTBSの子会社の音響効果会社に入社することができました。ワイドショーや情報番組、バラエティーなどいろいろな番組を担当していくのですが、時々ドキュメンタリーの仕事がくるわけです。やっていくうちに自分に向いているのは、ドキュメンタリーではないかと思いつつ始め、それなら質の高いドキュメンタリーを多く手がけているのはNHKしかない、30歳の時にキャリア採用試験でNHKに挑戦

しました。すごい番組をつくっている人たちからスキルを学んでみたいというのが動機でした」

—趣味はなんですか。

「旅行と美味しいものが好きなので、旅先で美味しいものを食べるのがいいですね。旅には小型録音機を持っていきます。旅先での街の雑踏や自然音、珍しい鳥の鳴き声などを収録します。良い音が録れたら仕事で使ってみよう。音響デザイナーはこれをやっている人が多くて、それぞれが録りだめした音を番組に活かしていると思います。やはりみんな音が好きなんですね(笑)」

—好きな本や言葉はありますか。

「沢木耕太郎さんの『深夜特急』が好きで、よく読み返します。旅の行程が詳細に書かれていて、読んでわくわくしますね。TBSで『世界ふしぎ発見!』を担当していたこともあり、映像でも本でも、遠い所に連れて行ってくれるのが好きです。好きな言葉は、田中芳樹さんの小説にあった『大人になるというのは、やりたい事とやらねばならない事を区別することだ』です。大人は好きなことばかりやってはられない。自戒を込めてそこに立ち返る言葉として思い返しています」

—後輩へのメッセージをいただけますか。

「学生時代は社会人とは違って時間がある。やりたいことを躊躇せずに行ってみてはどうかと思います。友達と友情をはぐくむのも大切ですが、自分だけのこだわりをもってトコトンまでやる。自分の例で言うと、CD買ってオタクっぽくやっていたというのが、今、役立っている。そういうこだわりとか、大人にも負けないものを見つけてもらうといいかなと思います。あと、友達と行く旅行も楽しいですが、ぜひ一人で世界でも国内でも飛び出してみたいと思います。一人で企画して、旅先で直面するであろう困難を乗り越えるという経験をしておくと、社会人になった時に心の支えになると思います。最後に私立大学で学ばせてもらっている感謝の気持ちを言葉にして親に伝えてほしいです」

学びの風景展

2017.10.11～11.4

「江戸子ども学びの風景展」 実際に使われていた道具類40点なども展示



江戸時代の寺子屋での子どもたちの学びに焦点をあてた「江戸子ども学びの風景展」が10月11日から11月4日まで、水田美術館ギャラリー1で開かれました=写真。公文教育研究会や当館所蔵の浮世絵版画や教材として使われていた往来物のほか、天神机やそろばんといった実際に使われていた道具類など約40点も展示。教育の原点ともいえる寺子屋教育に光を当てました。

当時、世界トップレベルの就学率、識字率を下支えした寺子屋は、民間人による庶民のための私的な教育システムとして成立。義務的なものではなかったため、どんな子どもでも学びたい時に学びたい期間だけ自由に読み・書き・そろばんを学ぶことができました。

展覧会では、歌川豊国の「風流てらこや吉書はじめけいこの図」や歌川国芳の「幼童席書会」などで、寺子屋での子どもたちの生き生きとした学びの様子を紹介。また、幕末から明治にかけて、埼玉県内随一の寺子数を誇った寺子屋兼私塾「北広堂」を運営し、埼玉の近世近代教育に大きく貢献した澤田泉山(1823～1910)による往来物11点も展示し、寺子屋教育の地方展開の一端を紹介しました。

高麗祭初日の10月28日には、法政大学文学部講師で往来物研究家の小泉吉永氏の講演会「江戸の寺子屋—知育・教育の諸相」が17号館であり、地域の方々が熱心に耳を傾けていました。

学生瓦版

広報委員会のメンバーが学内外で活躍する団体、個人を紹介する学生瓦版。今回は勝浦ゼミと薬学スキー同好会を紹介します。

「地域社会の課題を見つけて解決していく」 勝浦ゼミ ゼミ長 樋口晋也さん(経済学部4年)



経済学部の勝浦信幸教授が主宰するゼミである「勝浦ゼミ」。現在1年生20人、2年生20人、3年生18人、4年生15人の計73人が受講している。ゼミでは「地域社会の課題を見つけて、地域で連携・協働し解決していく」というソーシャルマネジメント(創造的地域経営)を行っており、多くの地域活動に参加している。

最も特徴的なのが、「つるがしマルシェ」。企画・運営から広報活動まで一から作り上げている国際交流イベントだ。今年は4回目の開催になり、10月1日、若葉駅西口駅前広場で世界各国のダンスや歌の披露、料理、民族衣装の試着を行った=写真。勝浦教授は「この活動が勝浦ゼミだけでなく、ほかのゼミにも広がってほしい」と語る。

ゼミ長の樋口晋也さん(経済学部4年)は「地域活性化イベントを自分たちで作りに上げていく上で、自ら考え行動していく力が身につく」と話す。来年2月16～18に行われる「坂戸ドリームワークショップ」にもゼミ生が参加する。皆さんもぜひ参加してみたいだろうか。

(取材:財務局一同)

五輪展

2017.10.11～12.9

「夢をかたちに、2020年の主役たち」 貴重写真30枚(毎日新聞社協力)などをパネル展示



2020年の東京オリンピック・パラリンピックを記念して10月11日から12月9日まで、水田美術館ギャラリー2で五輪展「夢をかたちに、2020年の主役たち」が開かれました。

毎日新聞社の協力で貴重な写真を約30枚のパネルにして展示しまし

た。五輪やパラリンピックの歴史、1964年の前回大会で活躍した内外の選手のほか、2020年に活躍が期待される日本の若きアスリートたちを紹介。前回大会では、マラソンのアベベ選手と円谷幸吉選手、柔道のヘーシンク選手、女子体操のチャスラフスカ選手、東洋の魔女といわれた女子バレーボールチームなど。3年後を目指す選手では、附属の城西高校を卒業して米フロリダ大に留学した陸上短距離のサニブラウン・ハキーム選手や体操の白井健三選手、水泳の池江璃花子選手らを紹介しました。

また、「本学期待の選手」として卒業生の陸上長距離の村山紘太選手(旭化成)、同400mの佐藤拳太郎選手(富士通)と堀井浩介選手(住友電工)に加え、同400mハードルの鍛冶木峻選手(経営学部4年)と渡部佳朗選手(経営学部3年)の現役選手合わせて5人に対する城西大学スポーツ新聞の学生記者によるインタビューもパネル化して展示しました=写真。

「スキーが好きな人は、学部関係なく大歓迎」 薬学スキー同好会 代表 川本璃央さん(薬学部3年)

薬学スキー同好会は、現在20人で活動している。水曜日昼にミーティング、月に1回体育館でトレーニングを行っている。シーズン中は12月、2月、3月に合宿を行う=写真。新入歓迎会、メンバーが仲良くなるきっかけとなる夏合宿、また文化祭の参加など積極的に活動している。冬合宿や大会は新潟で行われ、ペータ・プロディンガー氏から指導を受けている。冬以外にもトレーニングを増やそうと考えており、インラインスケートを使ったトレーニングや筋トレを取り入れようとしている。



代表の川本璃央さん(薬学部3年)は「本気でスキーが好きな人は、学部関係なく大歓迎。途中から競技スキーを始めるのは難しいが、目標に向かって自分自身を成長させ、真剣さや楽しさも味わうことができる。また、スキーだけではなく、勉強の悩みなども相談し合うことで絆が深まり、大学生活を有意義に送ることができている」と語った。

前大会では大学総合3位を獲得するなど、人数は少ないながら大きな成績を残している。スキーが好きな人、大学生活を充実させたい、大切な時間に出会いたい、そう考える多くの学生に興味を持ってもらいたい。

(取材:編集局一同)

※広報委員会ではニュース・話題を募集しています jukoho1@gmail.com

地域相互協力館の「図書館まつり」に参加



鶴ヶ島市立中央図書館」に、薬学部薬学科5年の高橋隼一郎さんと経済学部3年の笠原銀太さんが出場し、高橋さんが紹介した『はくのメジャースプーン』がチャンプ本に選ばれました。11月12日には、坂戸市立図書館「秋の図書館まつり」の「第3回ビブリオバトル坂戸図書館」に、笠原さんと鈴木さんが出場し、

9月23、24の両日、鶴ヶ島市立図書館「第30回図書館まつり」において「芭蕉と江戸俳諧の世界」をテーマに江戸中期の板本・写本を展示し、約150人の方にご覧いただきました＝写真。また「ビブリオバトルin

笠原さんが紹介した『残り全部バージョン』がチャンプ本に選ばれました。参加した学生たちは、発表者の社会人や高校生、さらに観戦された地域の方々とも交流できる良い機会となりました。



高橋隼一郎さん(右)と笠原銀太さん「ビブリオバトルin鶴ヶ島市立中央図書館」で



笠原さん「第3回ビブリオバトル坂戸図書館」で

「全国大学ビブリオバトル2017～首都決戦～予選会」



2列目右から4人目が鈴木さん、5人目が黒崎梨花さん、6人目が柴田 紘太郎さん「全国大学ビブリオバトル2017～首都決戦～予選会」で

10月6日に「全国大学ビブリオバトル2017～首都決戦～予選会 城西大学」を図書館視聴覚室で開催しました。今年度は17人のバトラーが3試合に分かれて発表し、学生、教職員、見学に来られた大東文化大学教員・図書館員など述べ167人の観戦者の投票により、以下の3冊がチャンプ本に選ばれました。

- ・経済学部3年、黒崎梨花さん紹介『Life Shift 100年時代の人生戦略』
- ・鈴木さん紹介『キンビール高知支店の軌跡 勝利の法則は現場で拾え!』
- ・現代政策学部3年、柴田紘太郎さん紹介『キングを探せ』

11月5日、文教大学越谷図書館で開催した「ビブリオバトルin文教2017(全国大学ビブリオバトル関東ブロック予選会)」に、大学院薬学研究科博士課程2年、大野由依さんが出場＝写真＝し、大野さんが紹介した『ちゃんちゃら』が見事、チャンプ本に選ばれました。



部バージョン 越生町

11月18日の関東Cブロック地区決戦には、予選会を勝ち抜いた鈴木さんと大野さんが出場し、接戦の末、大野さんが紹介した『ちゃんちゃら』が準チャンプ本に選ばれました。11月24日(金)の関東Eブロック地区決戦では、黒崎さんの経験を生かした練習の行き届いた発表と、柴田さんの身振り手振りを加えた魅力的な紹介で、会場を沸かせました。

学生アドバイザー主催ライブラリラウンジを開催



10月13日にグループ学習室6Bにおいて、理学部教授、伊藤陽先生による「第13回ライブラリラウンジ 音学と科楽」を開催し、学生や教職員など32人が参加しました＝写真。

伊藤先生からは、音と光を題材に楽器の実演を交えてわかりやすくお話しいただき、参加者も音と光の実験を体験するなど熱気あふれる会となりました。

エリア紹介

坂戸市

「坂戸の大宮住吉神楽」 祈年祭奉納

来 年2月23日に、坂戸市塚越の大宮住吉神社において「祈年祭」が執り行われます。埼玉県指定・国選択無形民俗文化財である「坂戸の大宮住吉神楽」が奉納されます＝写真。

大宮住吉神楽の特徴は、江戸里神楽の系統を

よく残しているところにあり、身ぶり手ぶりで物語を表現する演劇的なものです。また、神楽は氏子によって演じられており、内容は神話を題材とするもののほか、茶番狂言のような座もあって、合わせて22座の神



楽が伝えられています。

祈年祭での神楽奉納は、午前10時ごろに「六ごうげんごおきな合堅固翁の座」から始まり、「倉稲魂命種時の座」を演じて午前中は終了となります。午後には、1～2座程度を演じた後、「終祓(悪魔払い)」という家内安全等を祈願する演目で締めくくります。

神楽は、例年、祈年祭のほか、4月第1日曜日の例大祭(天下祭)、11月23日の新嘗祭でも奉納されています。

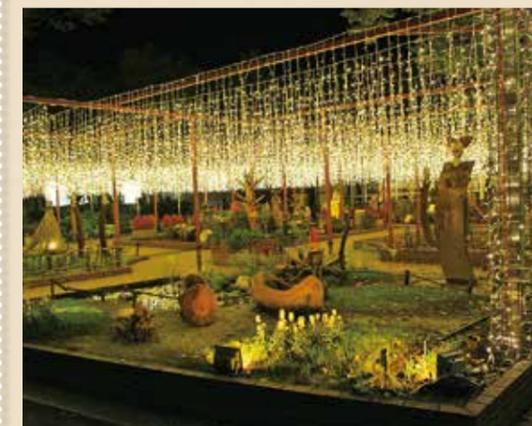
東武線沿線情報

東上線で幻想的なイルミネーションを見に行こう!

— 国営武蔵丘陵森林公園

東武東上線森林公園駅が最寄り駅の国営武蔵丘陵森林公園では、この冬「スターライトイルミネーション」を開催いたします。昨年からグレードアップした約45万球のイルミネーションで、森の妖精たちが暮らす世界、を表現＝写真。植物園前の広場に彩った12万球の森の湖には「海賊船」が登場、乗船もできます。その他期間中には多彩なイベントをご用意しております。

また、TJライナーの当日着席整理券を提示すると、園内の売店で割引特典も受けられます。ぜひ、東武東上線で国営武蔵丘陵森林公園へお出かけください。



【開催日】
2017年12月9日(土)、10日(日)、16日(土)、17日(日)
2017年12月23日(土)～30日(土)
2018年1月2日(火)～8日(月・祝)

【開催時間】
16時～20時30分(最終入場20時まで)。
雨天中止

【開催場所】
国営武蔵丘陵森林公園 中央口エリア

【アクセス】
12月9、10、16、17日、23～25日、1月2、3、6～8日は、東武東上線森林公園駅から「イルミネーション会場」への夜間無料シャトルバスも運行

越生町

武蔵越生七福神めぐり

武蔵越生七福神めぐりは、商売繁盛の恵比寿「法恩寺」、福德・財宝の大黒天「正法寺」、音楽と弁才の女神・弁財天「弘法山観世音」、幸運と長寿の福祿寿「最勝寺」、長寿の寿老人「円通寺」、財宝の毘沙門天「龍穩寺」、福德満満の布袋尊「全洞院」を巡る約13km、3時間15分の自然豊かなハイキングコースです。

新年1月4日(木)には、毎年恒例の「第34回新春武蔵越生七福神めぐり」を開催します＝写真。

真。七福神をめぐって多くの福を手にし、幸せな一年のスタートとして歩いてみませんか。

- ・スタート時間：午前9時～10時
場所：法恩寺(越生駅から徒歩2分)
- ・ゴール時間：正午～午後4時
場所：東上閣駐車場
- ※帰りは川越観光バス(黒山バス停～越生バス停:350円)をご利用ください。
- ※問い合わせは、越生町役場産業観光課(TEL.049-292-3121 内線145)



編集/学校法人城西大学 広報センター
発行/城西大学 総務部総務課
〒350-0295
埼玉県坂戸市けやき台1-1
TEL.049-271-7712
http://www.josai.ac.jp